

血液検査項目のやさしい解説(その意義)

検査目的 (臓器・病態)										項目	意義
全身	肝胆	脾臓	心臓	腎臓	糖代謝	脂質代謝	貧血	炎症	その他		
●	●			●						総蛋白	血清中の蛋白の量を調べる検査で栄養失調・下痢・肝臓病では蛋白が不足し、慢性の炎症、リウマチ、悪性腫瘍では増えます。
●	●			●						アルブミン A/G比	総蛋白=アルブミン+グロブリンの関係が成立し、アルブミンは栄養体調を維持する蛋白、グロブリンは免疫という生体防御に働く蛋白を含んでいます。総蛋白ではわからなかった病気を見つけることが出来ます。
				●					●	尿酸	尿酸は非常にとけにくいので増えると細かいガラス片みたいに血中を回ります。痛風という激痛を伴う関節炎発症の目安になります。
				●						尿素窒素 クレアチニン	腎臓が正常に働いているかを調べる検査です。これらの体の老廃物の一種で、腎臓が正常に働いていれば尿に出てきますが、腎臓の排泄機能がおちると血中に増えてきます。
	●									総ビリルビン 直接ビリルビン	胆汁にたくさんあるので、胆汁色素と呼ばれることもあり、肝臓、胆嚢、胆管に障害がおこると黄疸になり、皮膚が黄色になります。
●	●		●				●			AST (GOT) ALT (GPT) LDH	この3つの酵素は肝臓、心臓などの障害を受けて、これらの臓器の細胞が壊れると、血中にその量が増加します。
	●									ALP	臓器で作られる酵素で、ふだんは肝臓から胆汁に出されますが、肝臓や胆嚢から小腸にいく管が詰まるとALPが増えます。
●	●									コリンエステラーゼ	肝障害・農薬中毒などで低下します。
	●									γ-GT (γ-GTP)	アルコール性の肝障害で高くなるため、酒飲みの肝機能検査といわれています。
			●							CK (CPK)	骨格筋、脳及び心筋に多く含まれており、心筋梗塞や広範な脳梗塞において高値を示します。
		●								アミラーゼ	膵臓の病気を調べる時の代表的な検査です。
	●					●				総コレステロール 中性脂肪	高血圧や動脈硬化の兆候や進み具合をみる検査です。また、コレステロールは肝臓で合成されるので、肝臓の障害がひどい場合にはコレステロールはさがります。
	●					●				HDLコレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ、動脈硬化の予防には必要なコレステロールです。
	●					●				LDLコレステロール	必要以上に多くなると、悪玉コレステロールとして動脈硬化や脳梗塞の危険因子となることがあります。
				●					●	ナトリウム カリウム クロール	血中濃度の平衡を維持、調整することによって、水分代謝、浸透圧などを調節して体細胞の正常な代謝に寄与しています。
									●	カルシウム	筋肉や神経の興奮性や、ある種の内分泌臓器の働きを調整しています。また骨の形成に関与しています。
				●					●	無機リン	すべての細胞の代謝に欠かせない無機物です。骨の代謝(骨への吸収と放出及び、骨からの排泄)にとっても重要です。
							●			赤血球数 血色素量 ヘマトクリット値	赤血球、血色素、ヘマトクリットのどれが減少しても貧血となります。主に栄養のかたよりによる低色素の貧血が考えられます。赤血球の内容のほとんどが血色素(ヘモグロビンという色素蛋白)です。この蛋白が酵素の運搬体です。血液の状態や量をみるため、また貧血や多血症の診断に使われます。
	●								●	血小板数	出血を止めるという重要な働きをします。これが少なくなると血が止まりにくくなります。
								●		白血球数	細菌・ウイルス感染などの炎症の場合高値となります。白血球は細菌・ウイルスなどと戦い、生体を守るための細胞です。
								●		CRP定量	炎症があるか調べる検査。数値が大きほど炎症が重い、治った時には陰性に戻るのが早いので、病気の経過を知るのに役立ちます。
									●	リウマトイド因子	リウマチの原因物質があるかどうかの検査です。
		●				●				血糖	血液中にあるブドウ糖のことで、体のエネルギーとして重要です。しかし、増えすぎると血管が痛んだり、ほかの病気にかかったりします。血糖の調節ができなくなるのが糖尿病です。
						●				HbA1c (ヘモグロビンA1c)	糖尿病のマーカーとして過去の血糖値の平均を推測できるので、高値であったら基準値の範囲に入るように心掛けましょう。